

(1) 一般事項

<p>(ア) 協議会名称</p> <p>(仮称) 北上川流域観光地域づくり協議会</p>
<p>(イ) 計画対象地域</p> <p>北上川中流域：岩手県花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、金ヶ崎町、平泉町、藤沢町</p>
<p>(ウ) 位置図</p> <p>計画対象地域はピンク色で示している。</p>

(2) 基本構想

観光戦略

(ア) 地域の現状と主な観光資源の整理等

【対象地域における観光の現状】

対象地域は、岩手県と宮城県にまたがる延長249km、10,150km²の流域面積を持つ北上川流域である。対象地域内には平成20年7月に世界遺産登録が期待されている平泉文化遺産がある。平成17年に放送されたNHK大河ドラマ「義経」の影響もあり、本流域全体の観光客数は伸びている。対象地域にはおおよそ1,300万人回以上（H17年岩手県観光統計概要※中流域のみ）の観光客が訪れているが、花巻温泉を除けばほとんど通過型であり、一人当たりの国内旅行平均消費額の減少から、その経済的恩恵を十分に受けていない状況である。

このような中において、北上川流域には十分に認知されていない観光資源が多数存在しており、少数多様志向型・長期滞在型の観光計画立案と各都市間の連携がとれた観光推進が望まれるところである。



北上川は、南北に縦断する悠久の大河であり、奥羽山脈と北上高地に挟まれた大地をゆったりと流れ、302もの支流を集めて太平洋へ注いでいる。北上川の流れは、太古より歴史と文化を育んできた。

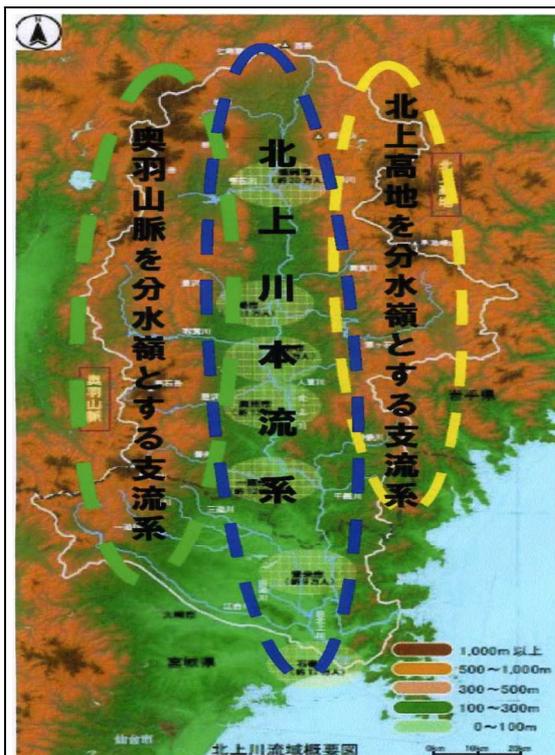
北上川沿いにはいくつもの都市が点在し、盛岡市をはじめ花巻市、北上市、奥州市、一関市、登米市、石巻市など政治・経済・文化活動の中心的役割を担ってきた。また、江戸時代には江戸へ米を運ぶ大動脈として発展し、舟運の集積地として河岸が栄え、市街地の発展に大きく貢献した。

更に支流に目を向けると、平野部で形成された文化は、各支流をさかのぼり山間にまで伝わって、新たな文化を育んできた。そしてここには川を軸とした田舎の暮らし（日常）が今なお息づいている。その自信と誇りに充ちた暮らしは、外国の人々に限らず国内の都市住民にとっても最大の観光資源となりえるものだが、これまで観光資源として捉えられてこなかった。

本流域の里山風景は、日本における一つの原風景的なイメージを有し、東北ならではの厳しい風土から生まれた素朴な人柄と豊穡な大地からの恵みは、ここを訪れる人々に、おいさと安らぎと懐かしさを思い出させる。まさに母なる心のふるさとである。

本プランは、北上川流域の暮らし（日常）とここに暮らす人々との交流から、「またあの人に会いたい」と思ってもらえるような心を繋ぐ観光を目指すものである。





流域の地形的特徴は、北上川によって形成された平野部である北上川本流系、西にそびえ立つ奥羽山脈を分水嶺とする支流系、東の北上高地を分水嶺とする支流系の3つのエリアに分けることができる。

図 地域特性から見た3つのエリア

(1) 北上川本流系

平野部は現在田園を抱えた市街地がほとんどで、それらの都市は北上川と切り離せない歴史を持っている。

流域の米を集めた石巻、北上川によって発展した城下町登米、名勝の巖美溪・狛鼻溪がある一関、世界遺産登録が期待される平泉の文化遺産、英雄アテルイの地・奥州、「みちのく三大桜名所」展勝地の北上、宮沢賢治が命名したイギリス海岸のある花巻、河道を変えた城下町盛岡などがそうである。

これらの都市は松尾芭蕉などの文学者とゆかりがあり、また、歴史的ストックが多くあることから、これらを活用したまちづくりの動きがある。



●各都市の歴史的ストックの例

(写真左から●上段：一関、花巻、前沢、水沢、江刺、●下段：遠野、花巻、北上)

(2) 奥羽山脈を分水嶺とする支流系

奥羽山脈は那須火山帯に属し温泉も多い。花巻温泉郷をはじめとして一関温泉郷、湯田温泉峡、夏油温泉などがあるが花巻温泉を除けば知名度はあまり高くない。しかしこれらの温泉は湯治場から始まったものがほとんどで、素朴で親しみのある情緒と景観を

備えている。この特性を活かすことが来訪者と地元の人との心の繋がりを生み出すもの
 と考える。また、栗駒山、^{やけいしだけ}焼石岳、和賀岳など国定公園、自然公園に指定されていると
 ころも多く、自然豊で登山客も多い。良質な雪に恵まれていることから、スキー場も多
 い。スキー場の近くには必ず温泉があるので、スキー場と温泉との連携を深めた観光プ
 ログラムを展開するなどして長期滞在型の観光地形成を図っていくことが必要である。



●山岳スポーツ・温泉・自然

(写真左から栗駒登山、須川温泉、焼石岳花畑、夏油高原スキー場、夏油温泉)

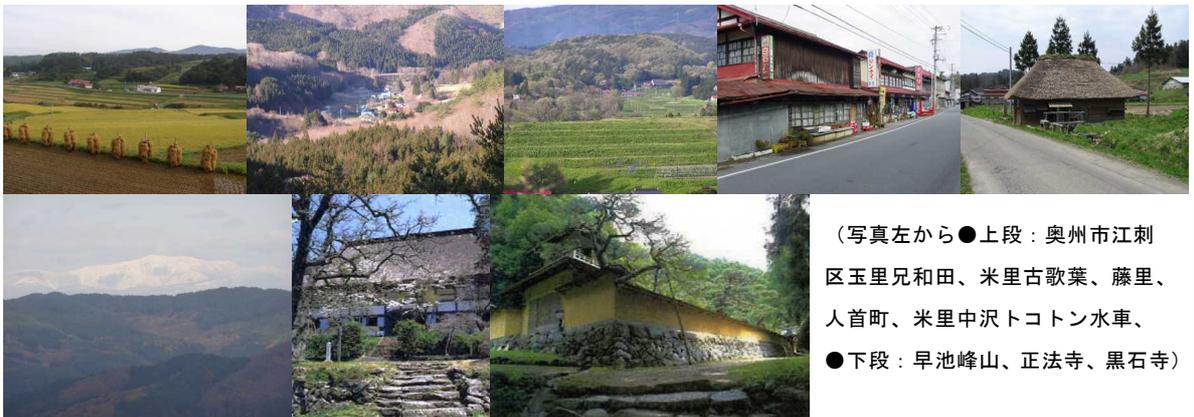
(3) 北上高地を分水嶺とする支流系

一方、北上高地は起伏に富んだ丘陵地が多く、古くから人
 々の暮らしが営まれてきた。そのため特有の農村景観を見
 ることができる。また、^{むろねさん}室根山や^{はやちねさん}早池峰山は自然公園、国
 定公園に指定され、特に早池峰山はハヤチネウスユキソウ
 などの高山植物の宝庫で登山客も多い。室根山はハンググ
 ライダーなど空のスポーツのメッカとなっている。



(写真：室根山空のスポーツ)

北上高地の東寄りには中世の道路である「^{あずまかいどう}東海道」が残され
 ており、この周辺には奥州市の正法寺、北上市の極楽寺など由
 緒あるお寺も多い。ただ、北上高地は交通の便が良いとは言えず、観光地化されていな
 い所が多い状況である。



(写真左から●上段：奥州市江刺区玉里兄和田、米里古歌葉、藤里、人首町、米里中沢トコトン水車、●下段：早池峰山、正法寺、黒石寺)

●北上高地の里山景観（上）と早池峰山、正法寺、黒石寺

北上高地は鹿踊りや権現舞など郷土芸能の宝庫である。奥州市江刺区では200以上もの郷土芸能団体が存在するほどである。これらの団体を一堂に会したイベントの開催や各地域毎の村祭り情報の発信などを行い、郷土の文化や風俗を知ってもらうことが来訪者との心の交流には不可欠である。



●金津流伊手獅子躍（奥州市江刺区 おらほの祀）

【地域のポジショニング（観光地としての強み）】

■外国人観光客

平成20年度に平泉の文化遺産の登録が期待される。現在は台湾を中心とした東アジアからの団体観光客が多い。

- ①花巻市（花巻温泉、宮沢賢治） 14,296人回/年
- ②平泉町（世界遺産登録が期待される平泉文化遺産） 12,251人回/年
- ③一関市（景勝地：巖美溪、狛鼻溪） 5,307人回/年

（平成17年度データ）

仙台空港から2時間圏内にあり、高速道路網、新幹線の整備はなされている。

■国内観光客

中尊寺をはじめとした平泉町、^{げいびけい} 狛鼻溪や^{げんびけい} 巖美溪などの景勝地を有する一関市、宮沢賢治の生まれ故郷花巻市、民話の里遠野市などの入込みが多い。花巻温泉などをはじめとする温泉が多いのも特徴である。また、胆沢扇状地の散居集落、北上高地の里山景観など隠れた素材が多くある。対象地域内には、いわて花巻空港、新幹線、JR線、高速道路が整備されている。

【主な観光資源及び入込客数】



平泉町（金色堂他） 221万人回/年
（写真：中尊寺覆堂）



遠野市（伝承園他） 192万人回/年
（写真：伝承園）



登米市（登米市教育資料館他） 221万人回/年
（写真：登米市教育資料館）



一関市（巖美溪他） 230万人回/年
（写真：巖美溪）

【隠れた観光資源】

観光資源として脚光を浴びていないものの、自然に溶け込み、歴史を物語る多くの隠れた観光資源が存在している。

(1) 北上川及び各支流

北上川、各支川のビューポイント、多様な体験場所、北上川の歴史遺跡など。



●川の遺跡例（奥州市前沢区）
しろとりたていせき
（写真：白鳥館遺跡）



●ビューポイント例（花巻市）
（写真：イギリス海岸）



●近代土木遺産（石巻市）
いしいこうもん
（写真：石井閘門 国重文）

(2) 各都市の歴史とそのストック

各都市はまちの成り立ちと発展の歴史が異なっている。又、歴史的ストックも多い。地域の文化を守り活かす意味でも観光資源として活用していくことが重要である。すでにこのようなまちづくりを実践している所もある。



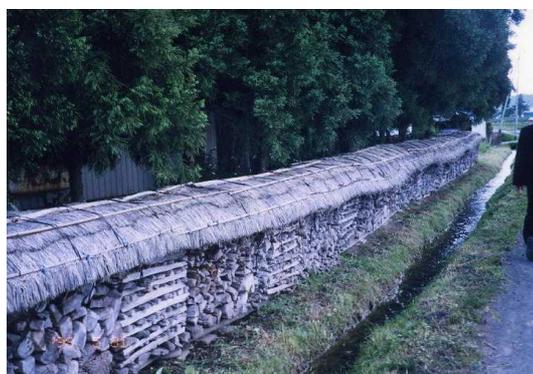
●まちづくりの事例（奥州市江刺区）
（写真：黒船スクエア）

(3) 田園風景

各都市の周囲には田園が広がり様々な暮らしを見せている。



●散居集落（奥州市胆沢区）



●屋敷の周囲に見られるキズマ（奥州市胆沢区）

(4) 里山景観と人々の暮らし

里山は様々な姿を見せてくれる。農山村の暮らしは、都会人にふるさとの原風景と心の安らぎを思い出させてくれる。

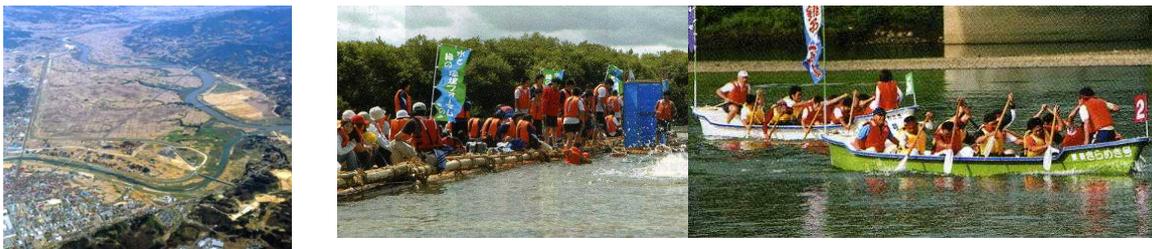


●人々の暮らし

(写真左から：築場の風景、田植え、餅つき、ホップの収穫)

(5) 自然環境

河川、山岳、里山など多様な自然環境が存在し、それらを活用した活動が展開されている。



●一関遊水地

(野鳥の楽園)

●川を活用した各種行事や環境調査などが行われている。

(写真左：登米市の筏下り、写真右：一関市川崎区Eポート大会)

(6) 観光化への動き

また、これらの「ふるさとの原風景」をそのままの姿で体験するグリーン・ツーリズムの取り組みが行われており、農家民泊や農家レストラン等の取り組みが活発である。



●農作業体験

(写真左：田植え体験、写真右：稲刈り体験)

(イ) 期待される主要な観光客の特性（誘客ターゲット）

■外国人観光客

①東南アジア諸国（台湾人、韓国人、中国人）

現在、主要観光地に来訪する外国人観光客の中で最も多く、特に台湾人の入込みが多い。今後も安定的な来訪が期待される。現在はパックツアー客が主流だが、今後は個人客や少人数のグループの増加を目指す。

②欧米・オセアニア諸国（アメリカ人、ヨーロッパ人、オーストラリア人など）

近年は、オーストラリアやニュージーランド人のスキー客が増加している。これをきっかけに日本らしさ、地域らしさを売り込み、北上川流域への来訪者の増加を目指す。個人や家族、小グループをターゲットとする。

③在留外国人（各国大使館員、留学生など）

日本に在留している外国人の人々に当地を少人数で体験してもらい、日本らしさ、地域らしさを知ってもらうことによって、自国へのPRの一翼を担ってもらうことを期待する。

■国内観光客

①関東圏

交通の利便性がよく、現在、主要観光地に来訪する観光客の主体となっており、今後も安定的な来訪が期待される。今後は、個人の長期滞在やリピーターの増加を目指す。

②関西圏

現在来訪者数としては多くないが、東北のふるさとを全面に出しながら仙台空港やいわて花巻空港などを利用した交通手段で売り込みをかけ、誘客を進める。団体客よりは個人、グループでの旅行者の増加を目指す。

③地元客

流域がかなり広域に渡るため、流域内での観光が可能となる。日帰りや一泊二日程度の団体や家族連れ、個人などの活発な旅行誘発を目指す。

(ウ) 観光地域づくりのテーマ

『 もっとゆったり、感じるままに 』

～ 出会いとふれあいの北上川 ～

- ◆ 出会いとは …… みちのくの大地と人々が出会い、「またあの人に会いたい」と思える旅
- ◆ ふれあいとは …… 豊かな自然、歴史文化や風土、人々の暮らしにふれあい、体験できる旅
- ◆ 北上川とは …… 北上川舟運を軸としたゆったり観光の実現

本プランでは、これまで述べた多様な観光資源を北上川舟運を軸にネットワーク化し、地域のもてなしの心を育み、NPOをはじめとした団体や人々の連携により、「またあの人に会いたい」と思ってもらえるような心を繋ぐ観光・地域づくりを目指すものである。

(エ) 観光地域づくりを達成するための課題と解決への方針		
<課題>	<原因分析>	<解決への方針>
1) 観光資源の利用【産業】		
<ul style="list-style-type: none"> ・北上川流域の地域資源が観光活用されていない。 	<p>観光資源としての利用する体制が整っていない。</p>	<p>観光資源として活用するための体制を整え、活用する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・良好な観光地を維持するための自然環境の維持保全、復元や農村の暮らしと社会生活の維持が十分でない。 	<p>地域住民において、地域の自然環境、暮らしが観光に結びつくという意識が弱い。</p>	<p>自然環境や景観などの調査、計画を作成、また、事業を実施し、良好な自然環境、地域の暮らしが観光に重要であることを住民に周知する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・里山の自然や暮らし、人との交流を目的とした資源の発掘がなされていない。 	<p>これまで観光と無縁だったことから、観光として利用を考えたことがなかった。</p>	<p>里山の自然や暮らし、人との交流が観光資源となりうることを周知させるとともに、体験事業を実施する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・食や地場の特産品は観光に重要な位置を占めているが、郷土食の伝承と提供、特産品の開発などが十分でない。 	<p>観光にはごちそうの提供という思い込みが、日常食（郷土食）を着眼する視点がこれまでなかった。</p>	<p>食文化の調査と郷土食の提供のあり方を検討、また、新たな商品の開発を行う。</p>
2) 計画づくり・意識づくり【計画】		
<ul style="list-style-type: none"> ・北上川上流、中流、下流域としての統一感と地区の特性を活かした観光計画がない。 	<p>これまでの各地域で観光振興を行っており、流域全体で観光を捉える着眼点がなかった。</p>	<p>流域全体における情報交換、広域的な連携を図る。 流域全体で捉えた観光計画を作成する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・多様なニーズと需要のある層への計画・対応が十分でない。 	<p>地域において、多様なニーズを把握しきれなかった。</p>	<p>専門家を活用した観光ルートの検討を行う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・通過型から長期滞在型へ向けた計画と受け入れ態勢の整備が十分でない。特にこれまで観光化してこなかった地域においては重要な問題である。 	<p>通過型から長期滞在型観光へ転換する仕掛けが乏しかった。</p>	<p>長期滞在型観光の計画立案と、その受け入れ体制の準備を進める。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・地元学の実践による地域資源の掘り起こしと保全の取り組みが十分でない。 	<p>地域住民が地元学を学ぶ機会、地域を見つめ直す機会が少なかった。</p>	<p>地域住民が、地元学を学ぶ機会を増やし、地域資源の掘り起こしと保全について、地域住民と協働で検討する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・河川をはじめとする身近な自然や歴史的建造物に対し、貴重な地域資源として大切にしている住民意識が十分でない。 	<p>河川をはじめとする身近な自然や歴史的建造物などの地域資源を見つめ直す機会が少なかった。</p>	<p>地域住民が、身近な自然や歴史的建造物を見つめ直す機会を設け、これらの地域資源の保全と活用について、地域住民と協働で検討する。</p>
<p>3) 体制づくり【体制】</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・顔と顔の見える関係、様々な立場（産・官・学・民）の横断的な連携と推進体制がなく、流域内の情報や進め方の共有化が十分でない。 	<p>多様なニーズに対応するため、県境を越えた多様な主体による広域的な連携を求められる時代になったが、そのような体制がなかった。</p>	<p>多様な主体による広域的な連携による、広域ネットワーク観光の推進体制を本協議会により構築し意識改革を図る。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な受け入れ体制、受け皿作りが十分でない。 	<p>観光客の受け入れ体制が十分でない箇所がある。</p>	<p>観光地化に向けて、観光客の受け入れ体制を整備する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・観光の裏側を支えるガイドやインストラクター、サポートメンバーの確保と教育、運用システムの整備が十分でない。 	<p>外国人を含め多様な観光客のニーズに対応するガイド等が不足している。</p>	<p>外国人を含め多様な観光客のニーズに対応するガイド等を養成、また、支援する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・各地域が観光地域づくりに向けた情報交換・施策協議など、具体的体制づくりが十分でない。 	<p>これまで、県境を越えた多様な主体による広域的な連携が行える体制がなかった。</p>	<p>多様な主体による広域的な連携による、広域ネットワーク観光の推進体制を本協議会により構築し、情報交換及び施策協議を行う。</p>

4) 観光情報・IT【情報】		
・ 広域観光、地区別観光、個別観光など観光客の利便性を図る案内、情報が少ない。	外国人をはじめとする多様な観光客の立場にたった案内整備、情報発信が不十分である。	外国人をはじめとする多様な観光客の立場にたった案内整備、情報発信を多様な媒体により実施する。
・ 宿泊情報、観光情報、個別観光など旅に必要な情報のインフォメーション施設が活用しにくい。	施設毎に提供される情報に偏りがあり、観光客の視点にたった情報発信がなされていない。	外国人をはじめとする多様な観光客の立場にたち、広域的な連携をしたインフォメーション施設のあり方について検討を進める。
・ インフォメーション施設と道の駅などとの連携が弱い。	各主体を越えた情報共有が弱い。	外国人をはじめとする多様な観光客の立場にたって、各施設の情報提供の連携を図る。
・ インターネットを使って新しい情報を常に発信していない。	各主体の情報発信の頻度が少ない。	多様な主体が情報共有する仕組みを構築し、外国人をはじめとする多様な観光客の立場にたって、常に情報発信を行う。
・ ターゲットを絞ったPRがない。	多様なニーズが把握しきれていない。	専門家の助言を受けながら、ターゲットを絞ったPRを行う。
5) 交通・アクセス【社会基盤】		
・ 観光客の移動手段が不足している。	二次交通の手段が不足している。	観光地における二次交通のあり方の検討を行う。
・ 道路案内がわかりにくい。	外国人をはじめとする多様な観光客の立場に立った道路案内となっていない。	外国人をはじめとする多様な観光客の立場にたって、道路案内の整備を行う。
・ 北上川にアクセスする交通体系が十分でない。	北上川を観光資源として活用する考えが浸透していなかった。	検討整備を行う。
・ 仙台と花巻の2空港と新幹線、東北本線、その他在来線及び東北道、国道、その他道路網の連携がスムーズにできる交通網の整備が不十分である。	観光資源は点在しており、それら観光資源と高速交通網及び主要幹線道路を結ぶ道路整備が十分ではない。	各行政団体が連携して、道路整備を進める。

(オ) アウトカム目標および目標年次	
■定量的指標 ※自治体調整済みの中流域エリアとして	
①国内観光客入込客数の増加目標	平成22年 15,600,000人回/年
平成15年 14,792,990人回/年	
平成16年 14,753,020人回/年	
平成17年 15,296,156人回/年	出典：岩手県観光統計概要
②国内観光客宿泊率の増加目標	平成22年 2,184,000人回/年：14%
宿泊数及び宿泊率	
平成15年 1,805,630人回/年：11%	
平成16年 1,703,169人回/年：11%	
平成17年 1,730,774人回/年：11%	出典：岩手県刊行統計概要
③外国人観光客入込客数の増加目標	平成22年 70,000人回/年
平成12年 26,743人回/年 (上位4ヶ国-台湾20,657、香港188、韓国178、中国170 単位：人回/年)	
平成17年 34,127人回/年 (上位4ヶ国-台湾23,926、香港1,787、韓国844、中国660 単位：人回/年)	
(■定性的指標)	
観光客へ聞き取り調査を行い、観光客の満足度を把握する。	
参加NPOや団体に事業評価やアンケート調査を行い、事業内容や推進体制などを常に検証しながら運営を進める。	
(カ) 外国人観光客を含めた観光客向けの対応	
● V J C 地方連携事業の取り組み	
有・ <u>予定</u> (平成16年)・無	
事業内容<YOKOSO! JAPAN東北・夏：5大重点市場 (韓国・台湾・米国・中国・香港) から旅行エージェントを招待>	
● 多言語による案内標識の設置	
有・ <u>予定</u> (平成19年～)・無	
対応言語< <u>英語</u> ・中国語 (簡体字・繁体字)・韓国語・その他 () >	
● 多言語による観光案内マップの配布	
有・ <u>予定</u> (平成19年～)・無	
対応言語< <u>英語</u> ・中国語 (<u>簡体字</u> ・ <u>繁体字</u>)・ <u>韓国語</u> ・その他 () >	
● 多言語によるホームページによる情報提供	
有・ <u>予定</u> (平成19年～)・無 <URL >	
対応言語< <u>英語</u> ・中国語 (<u>簡体字</u> ・ <u>繁体字</u>)・ <u>韓国語</u> ・その他 () >	
● 主要交通機関の外国人に対応した車内アナウンス	
有・ <u>予定</u> (平成19年～)・無 < <u>鉄道</u> ・地下鉄・バス・その他 () >	
対応言語< <u>英語</u> ・中国語 (簡体字・繁体字)・韓国語・その他 () >	
● 外国人に対応した観光ガイド、ボランティアガイド	
有・ <u>予定</u> (平成19年～)・無	
対応言語< <u>英語</u> ・中国語 (<u>簡体字</u> ・ <u>繁体字</u>)・ <u>韓国語</u> ・その他 () >	

● その他の取り組み

[観光関連産業の経営者、従事者の意識啓発を目的とした各種研修会、講習会の開催
有・予定(平成19年～)・無

対応言語<英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・その他()>

[観光カリスマや観光アドバイザーを活用した観光関連産業経営者や地域の意識改革
有・予定()・無

- ①観光カリスマ 綾野輝也氏(株式会社 黒船)による蔵を活かしたまちづくり。
- ②平成18年度選定 花巻市での観光まちづくりコンサルティング事業

[観光関連産業従事者向け外国人対応マニュアル、簡易会話集、対話ツール等の作成
有・予定(平成19年～)・無

対応言語<英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・その他()>

[周辺案内板の整備、既存周辺案内板の修繕]

有・予定(平成19年～)・無

対応言語<英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・その他()>

[各ガイドの会の連携した取り組みのための連絡会や資質向上を目的とした研修会
の開催]

有・予定(平成19年～)・無

対応言語<英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・その他()>

[二次交通確保のための調査・検討・交通事業者への協議]

有・予定(平成19年～)・無

対応言語<英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・その他()>

事業プラン（観光戦略の実現のために必要な事業や施策）	
（ア）観光地域づくりを達成するための課題に対応する事業	
観光戦略（オ）で挙げた課題	課題に対応する事業概要 （欄が不足する場合は本用紙を複製して追加する。）
1) 観光資源の活用【産業】	
北上川流域の地域資源が観光活用されていない。	b-③ 川体験メニューの旅行商品化の検討
	b-⑦ 流域におけるジャンル別100景の選定
	b-⑨ 東北ほんもの体験、カップ天国
	b-⑪ 川ガキ養成講習
	b-⑰ 北上川流域ガイド事業化検討
	b-⑱ 「猿ヶ石川さくらロード」利用促進事業
	b-⑲ 城内諏訪小路伝統建造物群保存地区ガイド
	b-21 中心市街地活性化事業
	iii-24 同心屋敷活用事業
	iii-25 賢治の広場「蔵」設置事業
	iii-26 町中ビジターセンター運営事業
	iii-27 花巻おもてなし事業
	iii-28 荘園内水田オーナー制度等交流事業
	iii-29 体験型ツアーの実施事業
	iii-30 ウォーキングイベントの開催
	iii-31 歴史資源等観光活用事業
	iii-23 賢治ふるさと情報館事業
	iv-29 日居城野運動公園整備事業
	iv-30 展勝地公園整備事業

<p>良好な観光地を維持するための自然環境の維持保全、復元や農村の暮らしと社会生活の維持が十分でない。</p>	<p>iv-33 一関地区水辺プラザ整備事業</p> <p>a-⑦ 全域の景観整備指針作成</p> <p>b-⑭ 観光まちづくり支援</p> <p>b-⑥ 里山調査と観光化のための指針づくり</p> <p>b-⑮ 温泉と癒しと観光に関する調査</p> <p>b-⑯ モデル都市のウォーキングトレイル計画提案</p> <p>c-① コミュニティガーデン事業</p> <p>c-② アズマヒガンの里づくり事業</p> <p>iv-34 北上川上流自然再生事業（北上地区）</p>
<p>里山の自然や暮らし、人との交流を目的とした観光資源の発掘がなされていない。</p>	<p>b-⑥ 里山調査と観光化のための指針づくり【再掲】</p> <p>b-⑳ 農業体験事業</p>
<p>食や地場の特産品は観光に重要な位置を占めているが、郷土食の伝承と提供、特産品の開発などが十分でない。</p>	<p>b-⑧ 食文化の調査と地場産品を活用した新郷土食の開発</p> <p>iii-32 オリジナル商品の開発事業</p>
<p>2) 計画づくり・意識づくり【計画】</p>	
<p>北上川上流、中流、下流域としての統一感と地区の特性を活かした観光計画がない。</p> <p>通過型から長期滞在型へ向けた計画と受け入れ態勢の整備が十分でない。特にこれまで観光化していなかった地域においては重要な問題である。</p>	<p>a-① 北上川流域観光資源調査分析</p> <p>a-② 基本計画の立案</p> <p>b-① 北上川舟運復活計画の立案</p> <p>iii-13 北上川観光活用検討のための舟運に関する調査事業</p>
<p>多様なニーズと需要のある層への計画・対応が十分でない。</p>	<p>iii-8 専門家を活用したモデルコース検討事業</p> <p>iii-9 モニターツアー実施事業</p> <p>iii-10 地域提案による観光資源発掘・観光ルート検討事業</p> <p>iii-11 観光名所・資源開発発掘事業</p>

<p>地元学の実践による地域資源の掘り起こしと保全の取り組みが必要である。</p>	<p>iii-12 地域住民意識啓発事業（歴史文化・ホスピタリティ）</p>
<p>河川をはじめとする身近な自然や歴史的建造物に対し、貴重な資源として大切にしていける住民意識が十分でない。</p>	<p>b-12 地域発見事業 a-11 観光による環境負荷問題解決手法の検討</p>
<p>3) 体制づくり【体制】</p>	
<p>顔と顔の見える関係づくりを進めながら、様々な立場（産・官・学・民）の横断的な連携と推進体制がなく、流域内の情報や進め方の共有化が十分でない。</p>	<p>a-9 観光関連業界の意識改革等に関する検討と実施 a-10 観光関連産業の連携促進 iii-17 観光産業間連携促進事業 iii-20 移住・定住化促進事業</p>
<p>具体的な受け入れ体制、受け皿づくりが十分でない。</p>	<p>b-22 レンタルサイクル貸出事業 iv-2 観光客受入体制の整備事業（骨寺村荘園遺跡関連） iv-3 観光客受入体制の整備事業（白鳥館遺跡関連） iv-31 駐車場・トイレ整備事業 iv-35 観光客受入体制の整備事業（長者ヶ原廃寺跡関連）</p>
<p>観光の裏側を支えるガイドやインストラクター、サポートメンバーの確保と教育、運用システムの整備が十分でない。</p>	<p>b-4 川を活用したイベントの各種サポート体制検討と実施 b-5 北上川リバーツーリングキャンプのためのサポートブックづくり b-10 リバースタースクールの実施 b-13 誰もがみんなガイドさん事業 d-2 川の学校の整備 iii-12 地域住民意識啓発事業（歴史文化・ホスピタリティ）【再掲】 iii-14 観光ボランティア育成事業 iii-15 経営者、従事者の意識啓発事業 iii-16 外国人観光客対応事業</p>

	iii-18 ボランティアガイド連携事業
	iii-19 通訳ガイド支援事業
各行政が観光地域づくりに向けた情報交換・施策協議など、具体的体制づくりが必要である。	a-⑧ 構想の周知や情報交換・連携の場に関する事業
4) 観光情報・IT【情報】	
広域観光・地区別観光・個別観光など観光客の利便性を図る案内・情報が少ない。 インターネットを使って新しい情報を常に発信していない。 ターゲットを絞ったPRがない。	a-③ ホームページポータルサイトの開設とITによる情報提供システムの検討 a-⑤ 流域内の観光情報収集システムと管理に関する検討 a-⑥ 情報収集の開始
	iii-1 ITを活用した総合的な情報発信事業
	iii-2 観光PR事業
	iii-3 観光パンフレット作成事業
	iii-4 散策マップ作成事業
	iii-5 道の駅等を活用した情報発信事業
	iii-6 観光案内所運営事業
	d-① 情報機器の整備
宿泊施設、観光情報、交通情報など旅に必要な情報のインフォメーション施設が活用しにくい。 インフォメーション施設と道の駅などと連携が弱い。	iii-6 観光案内所運営事業【再掲】 a-④インフォメーション施設のあり方と運営の検討 iii-5 道の駅等を活用した情報発信事業【再掲】
5) 交通・アクセス【社会基盤】	
観光客の移動手段が不足している。	iii-21 観光地等における二次交通確保調査検討事業
道路案内がわかりにくい。	iv-1 観光客誘導標識整備事業 b-② 川の標識設置検討事業

<p>北上川にアクセスする交通体系が十分でない。 仙台と花巻の2空港と新幹線、東北本線、その他在来線及び東北道、国道、その他道路の連携がスムーズにできる交通網の整備が不十分である。</p>	<p>iii-22 観光環状ルート構想推進事業</p> <hr/> <p>iv-4 JR東北本線衣川鉄道橋梁改修事業</p> <hr/> <p>iv-5 東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和）</p> <hr/> <p>iv-6 一般国道4号平泉バイパス</p> <hr/> <p>iv-7 一般国道4号水沢東バイパス</p> <hr/> <p>iv-8 一般国道4号花巻東バイパス</p> <hr/> <p>iv-9 一般国道4号北上拡幅</p> <hr/> <p>iv-10 一般国道283号上郷道路</p> <hr/> <p>iv-11 一般国道283号「駒板」工区</p> <hr/> <p>iv-12 主要地方道北上東和線「平成橋」工区</p> <hr/> <p>iv-13 主要地方道一関北上線下門岡工区</p> <hr/> <p>iv-14 主要地方道花巻大曲線小倉山の2工区</p> <hr/> <p>iv-15 一般国道284号真滝工区</p> <hr/> <p>iv-16 一般国道284号清田工区</p> <hr/> <p>iv-17 一般国道342号花泉バイパス</p> <hr/> <p>iv-18 都市計画道路 山の神藤沢町線道路整備事業</p> <hr/> <p>iv-19 都市計画道路 下巾鍋倉線道路整備事業</p> <hr/> <p>iv-20 市道 浅沢西中線道路整備事業</p> <hr/> <p>iv-21 市道 野合北湯口線道路整備事業</p> <hr/> <p>iv-22 市道 若葉町天下田線（天遊橋架替）道路整備事業</p> <hr/> <p>iv-23 町道 南花沢・前野線整備事業</p> <hr/> <p>iv-24 町道 和光・大谷地線整備事業</p>
---	--

	iv-25 石鳥谷地区直轄河川改修事業
	iv-26 一関遊水地建設事業
	iv-27 一関・川崎地区土地利用一体型水防災事業
	iv-28 遠野第二生活貯水池（遠野第二ダム）整備
	iv-32 胆沢ダム建設事業

(イ) 個別事業の内容			
(i) 核となるソフト事業			
(a) 構想推進事業者およびその他の地域団体等が行うソフト事業			
事業名称	事業概要	実施期間等	実施主体
a-① 北上川流域観光資源調査分析	流域内の観光資源の発掘と整理。	H19～20年度	北上川流域観光地域づくり協議会 NPO法人北上川流域連携交流会
a-② 基本計画の立案	流域全体及び上、中、下流域の観光計画を立案する。	H19年度	北上川流域観光地域づくり協議会 NPO法人北上川流域連携交流会
a-③ ホームページ・ポータルサイトの開設とITによる情報提供システムの検討	HPの各開設主体における内容の充実と相互リンクによる補完体制の整備など。IT情報提供システムの検討。 ネット予約システム導入の検討。	H19年度～	北上川流域観光地域づくり協議会 NPO法人北上川流域連携交流会
a-④ インフォメーション施設のあり方と運営の検討	広域的な見地から、観光客の立場に立ったきめ細かい対応のできるインフォメーションのあり方と施設や配置に関する検討。	H22年度～	北上川流域観光地域づくり協議会 NPO法人北上川流域連携交流会
a-⑤ 流域内の観光情報収集システムと管理に関する検討	流域内の観光情報収集システムとその管理に関する検討を行う。	H19年度	北上川流域観光地域づくり協議会 NPO法人北上川流域連携交流会
a-⑥ 情報収集の開始	流域内の観光情報収集を開始し、情報発信のための基礎データづくりを行う。	H20年度～	北上川流域観光地域づくり協議会 NPO法人北上川流域連携交流会
a-⑦ 全域の景観整備指針の作成	流域内の良好な景観の保全や環境復元のための指針を作成する。また、景観点検も行う。	H21年度	北上川流域観光地域づくり協議会 NPO法人北上川流域連携交流会
a-⑧ 構想の周知や情報交換・連携の場に関する事業	行政や観光関連団体、住民との情報交換や連携を図る機会を設け本構想の円滑な推進を図る。	H21年度～ H23年度	北上川流域観光地域づくり協議会 NPO法人北上川流域連携交流会
a-⑨ 観光関連業界の意識改革等に関する検討と実施	観光関連産業経営者、従業員の意識改革の具体的な対策検討と各種研修会、講習会などの実施。	H22年度～ H23年度	北上川流域観光地域づくり協議会 NPO法人北上川流域連携交流会

<p>a-⑩ 観光関連産業の連携 促進</p>	<p>観光関連産業の連携促進を 図るためセミナー等の開催 を行う。</p>	<p>H22年度～ H23年度</p>	<p>北上川流域観光地域づ くり協議会 NPO法人北上川流域連 携交流会</p>
<p>a-⑪ 観光による環境負荷 問題解決手法の検討</p>	<p>来訪者制御、ごみ処理問題 など観光の負の部分をもど うに解決していくかを検 討する 。</p>	<p>H20年度</p>	<p>北上川流域観光地域づ くり協議会 NPO法人北上川流域連 携交流会</p>

(i) 核となるソフト事業			
(b) 民間事業者が行うソフト事業			
事業名称	事業概要	実施期間等	実施主体
b-① 北上川舟運復活計画の立案	北上川舟運を復活させ、ゆったり観光の目玉とする。	H19年度	NPO法人北上川流域連携交流会
b-② 川の標識設置検討事業	北上川利用者の利便性、安全性を高めるために川の標識設置を検討する。	H20年度	NPO法人北上川流域連携交流会
b-③ 川体験メニューの旅行商品化の検討	舟運復活における体験メニューを検討する。	H19年度～ H20年度	NPO法人北上川流域連携交流会
b-④ 川を活用したイベントの各種サポート体制検討と実施	サポート体制の検討とサポーターの育成強化。	H19年度	NPO法人北上川流域連携交流会 各NPO
b-⑤ 北上川リバーツーリングキャンプのためのサポートブックづくり	北上川の宿泊を伴うロングツーリングを陸からサポートするための詳細な情報を盛り込んだ情報冊子を作成。	H20年度	くりこま高原自然学校 NPO法人北上川流域連携交流会
b-⑥ 里山調査と観光化のための指針づくり	里山の調査と観光化のための指針を作成。また、ガイドマップの作成なども行う。	H20年度	NPO法人北上川流域連携交流会 各NPO
b-⑦ 流域におけるジャンル別100景の選定	川の100景、里山の100景、町並みの100景などジャンル別に指定し、データベース化を行う。	H20年度～ H21年度	NPO法人北上川流域連携交流会 各NPO
b-⑧ 食文化の調査と地場産品を活用した新郷土食の開発	各地の郷土食とその背景調査及び新郷土食メニューの開発、コンクールなどの開催。	時期は調整後に決定	NPO法人北上川流域連携交流会
b-⑨ 東北ほんもの体験カッパ天国	北上川での遊びを通して自然の不思議を学ぶ（小中学生対象）。また、旅行者、学童クラブなど北上川での遊びを体験させる。	実施中	北上川フィールドライフクラブ
b-⑩ リバーマスタースクールの実施	川の歴史、遊び方、救難方法など川の達人育成事業。	実施中	NPO法人北上川流域連携交流会

b-⑪ 川ガキ養成講習	大人の川ガキをつくるための講習会実施。	実施中	川を知る会
b-⑫ 地域発見事業	地域住民が住んでいる所をよく知り、地域づくりにつなげるために行う事業の支援。	H21年度～	NPO法人北上川流域連携交流会
b-⑬ 誰もがみんなガイドさん事業	これまで観光と縁の無かった地域の観光地化を進めるため、観光客のもてなし方などの勉強を実施。	H21年度～	NPO法人北上川流域連携交流会
b-⑭ 観光まちづくり支援	地域住民がまちづくりを行いたい時の計画づくりなどの支援を行う。	実施中	NPO法人 イーティーシー
b-⑮ 温泉と癒しと観光に関する調査	民間療法の研究や温泉の活用方法など長期滞在に向けた温泉観光のあり方に関する調査を行う。	時期は調整後に決定	NPO法人北上川流域連携交流会
b-⑯ モデル都市のウォーキングトレイル計画提案	長期滞在を考慮して市街地の観光施設を繋ぐために、また田園を散歩してもらうために散歩道を計画提案する。	H20年度	NPO法人 イーティーシー
b-⑰ 北上川流域ガイド事業化検討	有料で北上川のアドベンチャーガイドを実施する事業の検討を行う。	H20年度	NPO法人北上川流域連携交流会 各NPO
b-⑱ 「猿ヶ石川さくらロード」利用促進事業	遠野東和自転車道を利用してサイクリングイベントを開催し、利用促進を図り未完成部分の整備促進を図る。	実施中	遠野東和自転車道整備促進同盟会
b-⑲ 城内諏訪小路伝統建造物群保存地区ガイド	城内諏訪小路伝統建造物群の見学者に対しガイドを行う。	実施中	さわら会
b-⑳ 農業体験事業	都会の人々に農村の自然や暮らしを体験してもらうため、農家民泊しながら農業体験等を実施する。	実施中	おうしゅうグリーンツーリズム推進協議会
b-21 中心市街地活性化事業	TMO振興室が実施する中心市街地活性化事業との連携により観光交流と地域づくりを推進するもの。	実施中	各TMO及び観光協会

b-22 レンタルサイクル貸 出事業	レンタルサイクルの貸出。	実施中	遠野市観光協会
--------------------------	--------------	-----	---------

(ii) 民間ハード事業			
(c) 構想推進事業者およびその他の地域団体等が行うハード事業			
事業名称	事業概要	実施期間等	実施主体
c-① コミュニティガーデン事業	都市の残地等修景が必要な場所へ、ランドワークを活用して修景緑化を行う事業。	H21年度～	北上川流域観光地域づくり協議会 NPO法人北上川流域連携交流会
c-② アズマヒガンの里づくり事業	流域の子ども達が、郷土のサクラであるアズマヒガンの苗づくりから植栽まで行い、景勝地づくりを行う事業。	H20年度～	北上川流域観光地域づくり協議会 NPO法人北上川流域連携交流会
c -			
c -			
c -			
c -			
c -			
c -			
c -			
c -			

(ii) 民間ハード事業			
(d) 民間事業者が行うハード事業			
事業名称	事業概要	実施期間等	実施主体
d-① 情報機器の整備	案内機能の充実と利便性を 図るため情報機器の整備を 行う。	時期は調整後に 決定	NPO法人北上川流域連 携交流会
d-② 川の学校の整備	北上川の安全管理等を指導 できる場所の整備。	時期は調整後に 決定	北上川フィールドライ フクラブ
d -			
d -			
d -			
d -			
d -			
d -			
d -			
d -			
d -			

(iii) 公的関連ソフト事業・施策			
事業名称	事業概要	実施期間等	実施主体
iii-1 ITを活用した総合的な情報発信事業	HPの各開設主体における内容の充実、相互リンクによる相互補完体制の整備や総合的なHP・ポータルサイト開設検討や情報提供システムの導入等を図る。	H19年度～ H21年度 一部実施中	岩手県、各市町村 各観光協会
iii-2 観光PR事業	キャンペーン、物産振興、海外セールス、コンベンション誘致、情報発信など観光客誘致に関わる事業。	H19年度～ H20年度 一部実施中	岩手県、各市町村 各観光協会
iii-3 観光パンフレット作成事業	広域エリア総合観光、各エリア別パンフレットの作成、広報DVDの作成及び配布等を行う事業。	H20年度 一部実施中	岩手県、各市町村 各観光協会
iii-4 散策マップ作成事業	市町村エリアの散策マップ作成（見所、食べ所、買い所、体験所など）。	H19年度～ H20年度	岩手県
iii-5 道の駅等を活用した情報発信事業	道の駅間の連携を図り、利用者の利便性を向上させると共にサービスエリア、周辺観光施設での情報発信を行う。	H20年度～ H21年度 一部実施中	各市町村
iii-6 観光案内所運営事業	案内機能の充実と案内拠点としての整備。	H19年度～ H21年度 一部実施中	各市町村 各観光協会
iii-7 外国語表記情報発信事業	外国語版コアゾーン案内シートを作成。（表面に地図、裏面に要望事項等の外国語：日本語対比表）。	H20年度～ H22年度	岩手県
iii-8 専門家を活用したモデルコース検討事業	旅行エージェントとタイアップしたモデルケースの検討。（一般観光、教育旅行別に広域、小エリア散策コースなど）。	H19年度	岩手県
iii-9 モニターツアー実施事業	一般客を対象としたモニターツアーの実施。	H19年度	岩手県

iii-10 地域提案による観光資源発掘・観光ルート検討事業	住民公募等による新たな観光資源情報の収集、観光ルート設定。	H19年度	岩手県
iii-11 観光名所・資源開発発掘事業	市内の観光素材を発掘し、多様な観光ニーズに応える体制をとることにより、誘客につなげる。	H19年度	花巻市
iii-12 地域住民意識啓発事業（歴史文化・ホスピタリティ）	地域住民の意識啓発を目的とした歴史文化・ホスピタリティを高めるための講習会等の開催。	H19年度～ H21年度	岩手県
iii-13 北上川観光活用検討のための舟運等に関する調査事業	北上川の観光活用検討のための舟運等に関する調査。	H19年度	岩手県
iii-14 観光ボランティア育成事業	観光客に対して思いやりやおもてなしの心を持つボランティアの育成を図る。	H19年度～ 一部実施中	各市町村
iii-15 経営者、従事者の意識啓発事業	意識啓発を目的とした各種研修会、講習会の開催。	H19年度～ H21年度	岩手県、各市町村
iii-16 外国人観光客対応事業	観光関連産業従事者向けの外国人観光客対応マニュアル、会話集、対話ツールなどの作成。	H19年度～ H21年度	岩手県
iii-17 観光産業間連携促進事業	観光関連産業間の連携した取り組みを促進するためのセミナー等マッチング機会の創出。	H19年度～ H20年度	岩手県
iii-18 ボランティアガイド連携事業	各ガイドの会の連携した取り組みを促進するための連絡会や資質向上を目的とした研修等の開催。	H19年度～ H20年度	岩手県
iii-19 通訳ガイド支援事業	通訳ガイドの会の運営支援、資質向上のための研修会等の開催、地域限定通訳案内士試験導入。	H19年度～ H20年度	岩手県
iii-20 移住・定住化促進事業	交流や移住に関する情報の発信・企画・体制整備を行う。	H19年度	花巻市

iii-21 観光地等における二次交通確保調査検討事業	世界遺産登録予定エリア内を中心とした循環バス運行等、二次交通の確保に向けた調査検討を行う。	H19年度～ H20年度	岩手県
iii-22 観光環状ルート構想推進事業	市内の観光施設を巡るコースをプランして誘客促進を図る。	実施中	花巻市
iii-23 賢治ふるさと情報館事業	中心市街地活性化の一環として、空きビルフロアを活用し、観光客や市民が集う場所の提供を行う。	実施中	花巻市、花巻観光協会
iii-24 同心屋敷活用事業	同心屋敷を休憩所、観光案内所として活用する事業。	実施中	花巻市
iii-25 賢治の広場「蔵」設置事業	賢治の広場『蔵』を訪れる観光客のために休憩所、観光案内所として活用する事業。	実施中	花巻市
iii-26 町中ビジターセンター運営事業	中心市街地に残っている蔵を観光案内所、物産の展示販売に活用し観光客の誘導を図る。	実施中	花巻市
iii-27 花巻おもてなし事業	花巻温泉郷のお湯を活用し、イベント時などに市街地に足湯を設置する事業。	実施中	花巻市
iii-28 荘園内水田オーナー制度等交流事業	荘園内の水田を利用したオーナー制度等交流事業の検討。	H19年度～ H21年度	一関市、地元協議会
iii-29 体験型ツアー実施事業	人や地域との交流によるリーダー確保のための体験メニューづくりや地元特産品製造体験などを組み込んだツアーの実施。	H19年度～ H21年度	各市町村
iii-30 ウォーキングイベントの開催	エリア内散策ルートを活用したウォーキングイベントの開催。	H19年度～ H21年度	各市町村
iii-31 歴史資源等観光活用事業	平泉と関連する古道、歴史・史跡等の観光活用対策等を行い誘客推進を図る事業。	H19年度	岩手県
iii-32 オリジナル商品の開発事業	地元特産品を活用したお土産品等の開発促進。	H19年度～ H21年度	一関市、奥州市、平泉町、各観光協会

(iv) 公的関連ハード事業			
事業名称	事業概要	実施期間等	実施主体
iv-1 観光客誘導標識整備 事業	観光客を観光施設等へ円滑に誘導するための案内標識を設置、統合整理、修繕等を行う。	H19年度～ H21年度	岩手県、各市町村
iv-2 観光客受入体制の整備 事業（骨寺村荘園遺 跡関連）	骨寺村荘園遺跡の存在する本寺地区と首都圏等との交流拡大のための実施体制と地域資源の情報発信、その他標識や駐車場などの関連施設の整備。	H19年度～ H21年度	岩手県、一関市
iv-3 観光客受入体制の整備 事業（白鳥館遺跡関連）	観光客受け入れのための駐車場や標識などの整備事業。	H19年度～ H21年度	奥州市
iv-4 JR東北本線衣川鉄道 橋梁改修事業	洪水時に流下阻害となっている鉄道橋梁を改築し、平泉町と旧衣川町（現奥州市）の治水安全度向上を図る。	実施中 H15年度～ H21年度	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
iv-5 東北横断自動車道釜 石秋田線（遠野～東 和）	高速ネットワークの形成による地域間交流の促進を図る事業。	実施中	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
iv-6 一般国道4号平泉バイ パス	交通混雑緩和、交通安全の確保を目的として、行う事業。	実施中	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
iv-7 一般国道4号水沢東バ イパス	交通混雑緩和、新幹線駅や高速ICへのアクセス機能向上を目的として行う事業。	実施中	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
iv-8 一般国道4号花巻東バ イパス	交通混雑緩和、新幹線駅や高速ICへのアクセス機能向上を目的として行う事業。	実施中	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
iv-9 一般国道4号北上拡幅	交通混雑緩和、交通安全の確保を目的として行う事業。	実施中	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
iv-10 一般国道283号上郷道 路	幅員狭小による交通隘路区間の解消のために行われる事業。	実施中	岩手県
iv-11 一般国道283号「駒板」 工区	線形不良による交通隘路区間の解消のために行われる事業。	実施中	岩手県
iv-12 主要地方道北上東和 線「平成橋」工区	線形不良と幅員狭小による交通隘路区間の解消のために行われる事業。	実施中	岩手県

iv-13 主要地方道一関北上 線下門岡工区	周辺施設の集積による交通量の増加と幅員狭小による交通隘路区間の解消のために行われる事業。	実施中	岩手県
iv-14 主要地方道花巻大曲 線小倉山の2工区	線形不良と幅員狭小による交通隘路区間の解消のために行われる事業。	実施中	岩手県
iv-15 一般国道284号真滝工 区	線形不良による交通隘路区間の解消のために行われる事業。	実施中	岩手県
iv-16 一般国道284号清田工 区	線形不良による交通隘路区間の解消のために行われる事業。	実施中	岩手県
iv-17 一般国道342号花泉バ イパス	交通混雑緩和と線形不良、幅員狭小による交通隘路区間の解消のために行われる事業。	実施中	岩手県
iv-18 都市計画道路 山の 神藤沢町線道路整備 事業	北上市と花巻市の市街地を結ぶ道路ネットワークの構築により観光交流と地域づくりを推進する。	実施中	花巻市
iv-19 都市計画道路 下巾 鍋倉線道路整備事業	新旧市街地を結ぶ道路ネットワークの構築による観光交流と地域づくり推進。	実施中	花巻市
iv-20 市道 浅沢西中線道 路整備事業	市街地と空港、ICとの円滑なアクセスを図るための事業。	実施中	花巻市
iv-21 市道 野合北湯口線 道路整備事業	市街地と空港、ICとの円滑なアクセスを図るための事業。	実施中	花巻市
iv-22 市道 若葉町天下田線(天 遊橋架替) 道路整備事業	市街地と空港、ICとの円滑なアクセスを図るための事業。	実施中	花巻市
iv-23 町道 南花沢・前野 線整備事業	交通混雑の解消のため路線拡幅を行う事業。	実施中	金ケ崎町
iv-24 町道 和光・大谷地 線整備事業	線形不良による交通隘路区間の解消のために行われる事業。	実施中	金ケ崎町
iv-25 石鳥谷地区直轄河川 改修事業	無堤のため洪水時には住家や中学校等が浸水する恐れがある旧石鳥谷町(現花巻市)において、築堤により治水安全度の向上を図る。	実施中 H15年度～	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

iv-26 一関遊水地建設事業	昭和22年アイオン台風、昭和23年カスリン台風による未曾有の被害を受けて計画に着手し、一関市や平泉町の市街地を洪水から防御する周囲堤の整備をするとともに、中小規模洪水から耕作地を守るため小堤整備を実施。周囲堤は、ほぼ概成し、支川衣川の整備推進を図る。	実施中 S47年度～	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
iv-27 一関・川崎地区土地利用一体型水防災事業	一関遊水池下流から砂鉄川合流点までは、両岸が急峻な山々に挟まれた狭隘部であり、家屋の浸水被害を受けている。輪中堤や宅地嵩上などの治水対策により早期の治水安全度発現を図る。	実施中 H18年度～ H22年度	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
iv-28 遠野第二生活貯水池（遠野第二ダム）整備	洪水被害を防ぐために行う事業。	実施中	岩手県
iv-29 日居城野運動公園整備事業	周辺市町村の運動施設の拠点として整備。A=30.6ha。	実施中	花巻市
iv-30 展勝地公園整備事業	総合公園として整備するもの。	実施中	北上市
iv-31 駐車場・トイレ整備事業	公衆トイレの統一と分かり易いピクトグラムの設置。	H19年度～ H21年度	各市町村
iv-32 胆沢ダム建設事業	北上川流域の洪水調整を行うとともに、かんがい用水や発電等の多目的ダムを整備する事業。	実施中	国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所
iv-33 一関地区水辺プラザ整備事業	北上川の学習交流拠点であるあいぽーと周辺を親水空間として整備する事業。	H19年度～ H20年度 (予定)	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
iv-34 北上川上流自然再生事業（北上地区）	北上川本来の良好な生態系及び北上川の本風景を再生する事業。	H19年度～ H23年度 (予定)	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
iv-35 観光客受入体制の整備事業（長者ヶ原廃寺跡関連）	観光客受け入れのためのトイレやガイド詰め所などの整備事業。	H19年度～ H20年度	奥州市

(3) 実践プラン実施にあたっての推進体制

(ア) 予定される協議会構成員	
・ 県市町村	北上川流域市町村連携協議会 花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、金ヶ崎町、平泉町、藤沢町並びに岩手県
・ 観光関係団体	(社)花巻観光協会、遠野市観光協会、北上観光協会、(社)水沢観光協会、奥州市江刺観光物産協会、(社)一関観光協会、前沢観光協会、胆沢観光協会、衣川観光協会、花泉町観光物産協会、東山町観光協会、西和賀町観光協会、金ヶ崎町観光協会、(社)平泉町観光協会、藤沢町観光協会 花巻商工会議所、石鳥谷町商工会、大迫商工会、東和商工会、遠野商工会、北上商工会議所、水沢商工会議所、江刺商工会議所、衣川商工会、前沢商工会、胆沢商工会、一関商工会議所、花泉町商工会、室根商工会、千厩商工会、川崎村商工会、大東商工会、東山町商工会、西和賀商工会、金ヶ崎町商工会、平泉商工会、藤沢町商工会
・ NPO団体	NPO法人北上川流域連携交流会【活動エリア：流域全体】 川と森のクラブ【活動エリア：雫石～紫波】 川を知る会【活動エリア：盛岡～花巻】 北上川フィールドライフクラブ【活動エリア：紫波～北上】 北上川倶楽部【活動エリア：奥州】 NPO法人北上川中流域エコミュージアム推進協議会【活動エリア：奥州】 水環境ネット磐井川【活動エリア：一関】 北上川リバーカルチャーアソシエーション【活動エリア：一関】 北上川サポート協会【活動エリア：北上～登米】 水と緑のフォーラム・ものう【活動エリア：一関～石巻】 くりこま高原自然学校【活動エリア：盛岡～石巻】 とよま北上川かっぱの会【活動エリア：登米～石巻】 NPO法人ひたかみ水の里【活動エリア：登米～石巻】 NPO法人北上川・水の輝き【活動エリア：一関～石巻】 NPO法人イーティーシー【活動エリア：花巻～一関】
・ 公共交通事業者	JR東日本、(社)岩手県バス協会、岩手県タクシー協会【未調整】
・ その他	旅行業者、岩手県レンタカー協会、岩手大学、岩手県立大学、放送局【未調整】

<p>(イ) 各構成員間での連携・調整の仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会の構成員を広く（ジャンル・地域・業種など）募り、本プランや観光地域づくりの意見交換の場を設け、顔の見える、“産・学・官・民”の連携とその推進体制を構築する。 ・その中で、基本方針、今後の進め方、世話人や体制、分科会（舟運復活、情報PRデータベース、ガイド・モデルコース等）を決め、NPO団体が中心となって逐次事業を実施していく。 ・本プランは中流域からスタートとし、上下流域への展開を図りながら事業を推進するものとし、上流域及び下流域の自治体及び関係団体等への参加要請は適時行っていく。
<p>(ウ) 住民参加の方法等</p> <p>(PIを実施した場合はその実施方法も記載して下さい。)</p> <p>【PIの実施】平成18年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プラン案について、ホームページを活用してパブリックコメントを実施した。この結果官民から25件の意見が寄せられた。これらの意見は計画や主要事業に反映させた。 ・NPO団体との意見交換の場を2回実施し、そこで出された意見も計画や主要事業へ反映させた。 <p>【住民参加の方法等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域発見事業、地域住民意識啓発事業（歴史文化・ホスピタリティ）などを活用し、地域住民の参画や協働体制の構築を図る。 ・地域住民が自らの手で行おうとする事業について、積極的に支援を行う。 ・実施にあたっては関係機関に働きかけ、地域住民を巻き込みながら実施していく。